

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 辻 裕史
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)

電話 (03) 3503-3829

FAX (03) 3503-3828

<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.36 No.1
2012.1.1
(通巻 211号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)



目次

年頭のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長	芝 則之	3
	日本新聞協会技術委員会 委員長	末本 利樹	4
新聞協会賞を受賞して「新聞製作システム ASURA」			
	産経新聞社 システム本部副本部長	安藤 久泰	5
楽事万歳	信濃毎日新聞社 技術局長	長田 実	7
	ニチロ工業(株) NS事業部 営業第2部部長	手打 省一	8
第35回国内研修会記			9
第37回年末全体会議開く			9
会員社レポート	(株)KKS、日本新聞インキ(株)		10
	コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)、(株)ゴスグラフィックシステムズジャパン		11
CONPT日誌他			12
会員名簿			13

●表紙写真提供：富士フィルムグラフィックシステムズ(株)・富士山

●表紙製版：(株)デイリースポーツプレスセンター

●組版・印刷：(株)デイリースポーツプレスセンター

厳しい環境下、光明の種火をさがす

日本新聞製作技術懇話会 会長 芝 則之



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

有史以来、洋の東西を問わず特異な年というものがあります。歴史の転換点となるような出来事が相次ぎ起こる年、災害・凶事が多発する年などです。残念ながら昨年は大災害と世界の経済危機が同時に発生する年であったようです。3月の東日本大震災と原発事故、秋には西日本を襲った台風豪雨。なかでも震災と原発事故は、この国の将来に長く影を投げかけることになりました。会員社におかれても大変なご苦労のあったことと思います。経済では、欧州の債務危機による不況と一時70円台前半にまで進んだ超円高があり、いぜん企業経営にとって懸念材料です。タイの洪水も進出企業だけではなく、多くの日本企業に部品供給不安をもたらし意外な影響がありました。新年早々、好ましからざることばかり述べ申し訳ありませんが、冷徹な目で世界の動きを見つめ分析し、それに対応することが以前にも増して重要と思えます。

* * *

さて、私ども新聞製作技術業界を取り巻く環境も厳しさは、いや増しに増しています。新聞総発行部数は2011年には4,834万部まで減少しています。そんななかでも昨年は新学習指導要領により、子ども新聞に脚光が当たりいま全国73の新聞社が何らかの形で発行しているそうです。紙の新聞にとって一筋の明るい光です。一方電子媒体の浸透は年を追って

顕著なものがあり、電子新聞を発行する社は現在十数社を数え今後も増えていきそうです。スマートフォン、タブレットによるニュース配信も若者中心に一定の市場規模がありますが、紙の新聞の主役の座は当分揺るぎそうもありません。新聞製作技術の革新を弛まらず続ける必要性はいささかも減ずることはないと同時に、一方で製作設備の有効活用を新聞界に提案していくことも重要です。関係各方面と協議しつつ良い提案ができればと思います。懇話会として、新聞発行部数の減少に歯止めがかかり、老朽化しつつある製作設備の更新が進むことを祈らずにはられません。

* * *

懇話会最大のイベントであるJANPS（新聞製作技術展）は、いよいよ今秋11月27日の開幕を迎えることとなりました。新聞社の積極参加をお願いするほか展示の多様化など、目新しさのあるJANPSを目指しています。新聞製作技術業界にとって正念場といっているでしょう。JANPSを成功に導くには会員各社の絶大なご協力が不可欠です。どうかよろしくお願い致します。また、5月のデュセルドルフで開催するDrupa（国際総合印刷・メディア産業展）へCONPT・TOURを派遣いたします。技術革新はまさに日進月歩のいま、先進的なアイデア・製品を見学して吸収、新聞製作技術に応用することが望まれています。いかに新聞社側のコスト削減・エコ実現の要請に応えられるかです。今年も課題山積、会員各社が力を結集して難局を乗り切っていくまいしょう。

新聞製作の船を沈めないために

日本新聞協会技術委員会 委員長 末本 利樹



「私たち新聞業界の置かれている環境は非常に厳しい」、こう言われ始めてもう何年も経ちますが、事態は全く好転していません。新聞の市場規模が縮小していく中で、

新聞業界がこれからどういう方向に向うのか、まだ明確な方向性は見つかっていませんが、確実なことは、規模が縮小する中でも紙の新聞の発行を続けていくこと、これなくして新聞社経営は成立しないということです。

* * *

こんな中で新聞社の技術部門はこれまで各社それぞれ知恵を出し、この対策に当たってきました。印刷部門を子会社化するの是一般的になりましたし、さらにはそれをグループ外の印刷会社へ任せるケースもあります。社を越えて受委託印刷や共同配送などの協働態勢も驚くほどのスピードで進んでいます。また、デジタル分野の急速な進展への対応やシステムコスト削減のために、制作システムの改造や更新、業務系システムへのパッケージソフトの適用なども進めています。これからも印刷・輸送コスト、システムコストの削減要請は強くなっていくでしょう。システムスペックの共通化やシステム自体の共用化という話も現実になりそうです。1社単独では解決できない問題を複数社が協働することで解決していこうという大きな流れが出てきたように感じています。

こうした新聞社の協働に加えて、CONPT加盟社、といいましても夫々の会社の規模も違えば、担っている業種も異なるわけですが、加盟社間での協働を期待することはできないでしょうか。自社の利益はもちろん大事ですが、新聞製作業界自体が沈んでしまっただけでは元も子もありません。新聞社も加盟社も乗っている船は同じです。今年、3年ぶりのJANPS年です。前回好評だった「新聞社からの出展」の促進、「海外からの来場者の積極的勧誘」、大学や研究機関による「研究レベルの先進技術の紹介」などの活性化に向けたアイデアを実現できればと思っていますが、新聞社からの魅力ある出展に加えて、CONPT加盟社間でのコラボレーション出展を期待したいところです。

* * *

これからも報道機関として新聞各社が競争していくことは当然ですし、メーカー各社が技術や販売にしのぎを削ることも当然です。しかしながら、新聞製作を支えていくためには技術・製作分野における同業他社との協働態勢が益々重要になっている。そんな時代だと思います。まだまだ、読む側にとっても、作る側にも新聞は必要です。皆で乗っている新聞製作の船を沈めないよう、一緒に知恵を出し合い、踏ん張っていききたいものです。



新聞製作システム「ASURA」

産経新聞社 システム本部副本部長 安藤 久泰



2011年8月、産経新聞社の新聞製作システム「ASURA」の移行が完了した。「ASURA = 阿修羅」とはAdvanced Sankei Users Run Architectureで、「産経ユーザーのための先進的な多メディアサービスのシステム基盤」を構築したいと命名した。

産経新聞社は、新聞では産経本紙をはじめサンケイスポーツ、夕刊フジ、フジサンケイ・ビジネス・アイ、SANKEI EXPRESS、競馬エイトを発行し、WebでもMSN産経、iZa、サンスポコム、ZAKZAK、SankeiBiz5サイトの運営を行っている。さらにスマートフォンやタブレット端末へ配信するなど多媒体を抱えている。この多メディアサービスの編集作業を効率化し、さらに新たな媒体にも柔軟に対応し創出していくこと、さらなるコストの削減をプロジェクトの目的としてスタートした。

システムの構成は、素材管理、組み版、統合データベースを3本柱に、競馬、紙面工程管理、広告素材、送信、文字管理、統合運用管理、統合認証を加えた10のシステムからなり、一台の統合端末で必要なウィンドウ(アプリケーション)を起動し、編集作業を行う仕組みである。

「いつでも、どこでも、だれもが」統合端末で情報を共有し編集作業を効率良く進め、多メディアサービスを実現する。この新しいワークフローは、素材管理を中心とした全社最適のフラット型。従来の媒体部門別の縦型ワ

ークフローから移行したことで、コンテンツのマルチユースが可能となった。記者は媒体に関係なくテーマ管理されたコンテンツを器に送り込み、各媒体のデスクは器からコンテンツをテーマ等で検索し、商品を完成させていくイメージである。

ホストコンピューターから脱却し、インターネットなどの汎用技術やパッケージシステムを採用したほか、導入機器類もA3レーザープリンター等を活用。徹底して汎用・標準技術を利用することでコスト削減を図った。また、システムの本番極を東京一極運用とし、災害対策極を大阪に持つことで運用コストの削減を実現した。

新聞はより高品質にするため、解像度1200dpiや新AMスクリーニングを導入し、活版時代の名残「組み寸」をやめ「刷り寸」に統一した。また、システムごとにコード変換していた文字コードを統一し、端末の表示文字と出力文字を一元管理できる仕組みを導入、文字イメージを新たに作成した。

以下に、ASURA構築のいくつかの成果をご紹介します。

*利用者主体でのプロジェクト推進

利用部門のワークフロー変更を伴うプロジェクトは、利用者主体で推進しないと困難と考え、今までの開発方法や進め方を見直した。

利用者(編集部門、デジタル部門)主導で、コンサルタントとベンダー3社に参加を求め、15名ほどが同じテーブルで要件の精査を3カ月集中して実施した。要件の精査以外にも将来の新聞社の在り方、新たなワークフロー、

プロジェクトの目的やゴールを、十二分に議論を行った。この議論の内容をシステム構築の柱と位置付け、プロジェクトを進めることで、開発途中で発生する問題に適切に対処することができた。要件・仕様の調整、見直しも利用者間で行い、必要以上に膨らむことなくまとめることができた。

システム移行も利用者主体で行った。今回のシステム移行は、刷り寸対応と文字を変更したため、媒体ごとで東阪一括移行を選択した。移行に向け利用者の習熟度を上げる必要があるが、各部署からトレーナーを選出し、自部署の習熟に責任を持つことを基本とした。この手法が奏功し円滑な移行とスケジュールを守ることに繋がった。

多メディアサービスへの編集部門の意識改革、新ワークフローに合わせたレイアウトを検討する「委員会」を別途立ち上げて、プロジェクト推進の両輪とした。両組織の委員長は当時の専務取締役が務め陣頭指揮することで、システム開発と組織面で齟齬が出ないように進めた。

利用者主体でプロジェクトを推進したことで開発期間18か月、移行期間4か月という短時間で完遂できた。

* 全作業1台の統合端末で

一つのデスクトップで全ての編集作業が出来ること、また、社内、社外を問わず同じ作業ができること——これらを実現するために、今回導入する端末は全てのシステムが稼働する統合端末とした。

統合端末からのアクセス権限制御は、端末を立ち上げる時に社員証をかざして統合認証システムを経由する。その後はシングルサインオンにより、アクセス権限があるシステムのみアプリケーションが起動する。インターネットも利用できるため、端末の状況監視やアクセス記録を取得する仕組みも導入した。

また、社内、社外を問わずどこでも編集作

業ができるようにするため、インターネットVPN（バーチャルプライベートネットワーク）経由で社内ネットワークに接続する仕組みも再構築した。

ウェブへの速報配信も統合端末で完結するため、より多くの記事・写真を迅速に配信している。

* 自動組版による省人・省力化

従来から県版などで自動組みを進めていたが、今回さらに競馬エイトで競馬紙面の自動化を発展させた。

JRAの情報を自動取得し、出走表や組み物を自動送信する仕組みや、仮素材で組み版できる機能を利用して、自動組スクリプトを自社で開発した。前日に仮素材で組み版しておき、当日送信された小組みを一括反映する。10ページを2、3人で組み版することができ省人化を実現した。また、組版時間も10～15分短縮、半減することができた。



新聞社のCMSは海外を含め各ベンダーからさまざまなモデルが提案されているが、今回構築した「ASURA」システムはCMSの機能を搭載できた。CMSは利用者主体での構築が不可欠と考え、開発手法を工夫しプロジェクトを進めた。

産経新聞社の「ASURA」開発の取り組み、多メディアサービスに対応したCMSモデルが、皆さまの検討の際に参考となれば幸甚である。

今回の新聞製作システム「ASURA」構築が、期間短縮に加え、予算の大幅削減で完成し、今回の新聞協会賞を受賞できたのは、厳しい開発スケジュールに沿って集中的に支援いただいた日本IBMを中心とした開発ベンダー各社、度重なる調査や見学を受け入れていただいた新聞各社の協力があってこそである。この場をかりて厚く御礼申し上げたい。

樂事万歳

八ヶ岳

信濃毎日新聞社 技術局長

長田 実



3.11東日本大震災の翌日、震度6強の地震に襲われた長野県北部の栄村では、豪雪の冬を支え合って乗り切ろうとしているという。東日本の被災地も、厳寒の冬を越すのは大変なことだろう。日本の屋根、信州の山々は冬景色だが、その一つ、八ヶ岳に四季、心癒やされる場所がいくつかある。いつか訪れていたいただければ—と思う。

諏訪側の茅野を出発点に、八ヶ岳連峰の南端をスケートリンクのカーブを回るように佐久側に出て、麦草峠から諏訪側に戻る「八ヶ岳一周コース」を紹介したい。

まず諏訪側から八ヶ岳に向かって、ほぼ一直線の道を上っていくと、阿弥陀岳がどんどん迫ってくる。阿弥陀岳の陰に隠れて見えない主峰・赤岳と間違われるほど堂々とした姿だ。登山口・美濃戸口の手前で「鉢巻き道路」と呼ばれる、八ヶ岳に鉢巻きをしたような道に出る。原村から富士見町へ南下する道は快適だ。富士見高原からは、その名の通り、遠くに富士山が見える。

* * *

山梨県に入って、八ヶ岳南端の編笠山のすそ野を進むと、連峰の姿は一変、赤岳が雄姿を見せる。牛たちが放された牧場の緑も見事だ。

清里高原を抜けて長野県の佐久側に入る。南牧村野辺山から、千曲川源流の村、川上村に。千曲川上流は川幅も狭く、のどかだ。下流の長野市などでは水量が増し、ゆったりとした千曲の流れも、ここから始まる。

かつて、長野県の千曲川にはサケが多く、最上流の川上村まで上ってきたが、昭和10年代、下流にダムが建設されると激減した。しかし、川上村の清流は今もすがすがしい。

千曲川の流れとともに小海町を北へ走り、佐久穂町で左折、八ヶ岳・麦草峠に向かってメルヘン街道を上る。沿道に、シカの食害から畑を守る防護ネットが目立ってくる。天敵のオオカミが姿を消してから急増したシカ。食害が大きな問題になっている。

さらに上っていくと、大石川に架かる八ヶ岳嶺橋から紅葉の絶景を見ることができる。そして、八千穂高原には白樺林が広がる。メルヘン街道沿いに白樺が立ち並ぶ、さわやかな風景だ。林の中の小道を散策することもできる。「白樺 青空 南風…」。「北国の春」の作詞者・いではくさんは、佐久地方の出身だ。

* * *

麦草峠までもう少しの地点に、白駒池への入り口がある。白駒池は標高2115^{メートル}。北八ヶ岳の神秘的な池だ。周辺の原生林にはコケが広がり、「日本の貴重なコケの森」に認定されている。夏から秋にはコケの森を歩いて池に向かう観光客でにぎわう。

ただ、紅葉の最盛期には、駐車場が満車のため路上駐車が续出、麦草峠にかけて「標高2100^{メートル}の大渋滞」を招くこともある。それだけ人気があるのだが…。

その麦草峠は、11月中旬から4月中旬まで冬季閉鎖されている。

峠を越えれば、再び諏訪側だ。つづら折りの坂道を下っていくと、縄文時代の「尖石遺跡」の近くに「縄文の湯」、その南方に「望岳の湯」がある。山ろくには、こうした魅力ある温泉が多い。

以上が、大自然の中を走る「八ヶ岳一周コース」だ。

最後に、雪化粧した八ヶ岳が夕日を浴びてピンク色に染まる美しい姿を見せてくれる日があることをお知らせしたい。

カワハギ釣り

ニチロ工業（株）
NS 事業部 営業第 2 部部长

手打 省一

この時期に、趣味と言えるほどではないのですがカワハギ釣りに仲間と行くのが楽しみです。私がはじめてカワハギ釣りに行ったのは、仲間から「船でカワハギ釣りに行くけど、一緒に行かない」と誘われ行ったのが初めてです。船釣りが初めての事なので本人は、どうすればいいのかわからず取りあえず釣具屋だ、と言うことで比較的品数の多い釣り道具屋に行きました。私が釣り竿をみているとすかさず店員が来て「対象魚はなんですか」と聞かれ「カワハギ」と答えると店員からここぞとばかりに「竿は7:3調子で竿先は、堅いほうがあたりを取りやすいので適している」と言われ、船竿のカワハギに決まりました。つぎはリール選びです。お客さんは右利きですか聞かれ「はい」と答えると、カワハギは餌とり名人と言われているので、底におもりが着くとすぐに糸ふけを取らないとあたりが分からないので左リールを勧められ素直に左リールを購入しました。道具は、言われるままに一通りそろったのでいざ釣旅行です。一台の車に4人乗ってカワハギの聖地久里浜へ。

* * *

車内では、エサ付けの指導を受けながら針の種類はと聞かれカワハギ釣りに適している釣り針が何かも知らず、初心者向けの丸セイゴ針にエサを付ける方法を教わりました。はじめに水管に針を通してぐるりと一回転させてペロを通し、わたで釣り針を隠すようにつける事と言われました。エサ付けは、直接釣果に現れるので真剣に覚えようと思いました。

乗船です。釣り船のマナーもよく知らず、とりあえず指定された場所に腰をかけ竿だしリールをセットしてラインをセット。仕掛け

を付け3本針にエサを付けようと思いました。あさりのむきみは、意外とぬめりがあり海水で洗い水分を取った方が、エサ付けが楽だと言われ備え付けのザルでアサリを洗い準備は完了です。エサの付け方は、車中で教わっていたのですが、おもりを左手に持たないでエサ付けを行っていたので、お約束通りにおもりが転がり指に釣り針が刺さりました。思わず声を出すと横にいた先輩に笑われ、初めは必ず一度は釣り針が衣服にかかったりするので気を付けないと怪我をするよと言われました。やっとの思いでエサ付けが完了です。

* * *

期待に震えながら、一投目を投げると25号のおもりは、海底めざして勢よくリールからラインが繰り出され20mを越えたところで止まりました。糸ふけを取るとすぐにコツコツとあたりが来たので素早くリールを巻くと、釣り針にはエサが付いていませんでした。さすがエサ取り名人、あっという間にやられました。よし次は、エサを取られないように底に付いたぐらいでリールを巻くとなかなか左だと巻きづらいなと思いながら巻いていると途中で軽くなり巻き続けるとまた重くなり、よく分からない内に巻き上げるとビギナーズラックです。形のよいカワハギついているではないですか？思わず笑いがでるほどうれしかったです。何事も初心忘るべからず今後も仕事に遊びに頑張っていきたいです。



第35回国内研修記

—新日本海新聞社及び

グッドヒル紳士服製造工場見学—

11月11日(金)、鳥取市にある新日本海新聞社製作センターとグッドヒル紳士服製造工場を見学した。今回の研修会には、事務局2名を含む総勢15名が参加。新日本海新聞製作センターは同社の新たな印刷拠点として、かつ、初の遠隔工場として平成21年11月に竣工した。本社社屋から西に約5キロ離れた鳥取市郊外に新設された工場で、20年春に開通した南北の鳥取自動車道と整備中の東西の山陰道の結節点に位置し、配送拠点として交通の利便性の高い立地条件に所在する。新工場には三菱重工製4×1輪転機1セットが導入され、鳥取県、島根県東部、兵庫県但馬地区を中心に約17万部/日を印刷発行しており、鳥取県内では77%の占有率を誇る。

当日は、見学者のため特別に「米子一鳥取間駅伝競走大会」の紹介紙面を実機運転して戴いた。オペレータによる、紙仕立てから紙上げ、インキ巻きの準備段階から、印刷、刷了後のブランケット洗浄までの一連の作業を懇切丁寧に見せてもらった後、製版室、インキ供給室、給紙部等をご案内戴いた。また、同社吉岡オーナーが経営する、紳士服縫製工場グッドヒルの見学も併せ行った。同工場はオリジナルブランドの「エフワン」のみならず、全国各地の百貨店や高級紳士服の縫製を一手に引き受けている国内トップシェアの最



新鋭IT工場。持ち込まれた生地をCADを駆使したオーダーメイドで、断裁から縫製仕立て、装飾品の取り付け等で完成し全国に発送されている。他業種の貴重な製造工程が見学出来、有意義であった。見学後は鳥取の海の幸レストラン「海陽亭」にて、解禁直後のカニ三昧で堪能した。お客様の至れり尽くせりのご案内により非常に有意義な研修会となった。

お世話になった、本城専務様、出井局次長様を初め、工場関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(三菱重工印刷紙工機械 矢森仁記)

第37回年末全体会議開く

第37回年末全体会議が12月5日、午後4時から日本記者クラブ・宴会場で開かれた。来賓に新聞協会技術委員会常任委員の仲沢仁氏(日本経済新聞社製作局長)、協会編集制作部長の富田恵氏を迎え、30の会員社から38名の方々が出席した。芝則之懇話会会長は開会の挨拶のなかで、大災害と円高による経済不安で会員社の皆さんには大変なご苦労のあった年だったと労った上、来年は5月のDrupaに向けたCONPT-TOUR派遣のほか、最大のイベントJANPSがありこれらに全力を挙げると述べた。

また仲沢技術委常任委員は「新聞社、メーカーは一丸となって生き残っていく気構えを持ちながら、ブレイクスルーしていこう」と提言。富田部長は「災害対策で全国的な新聞社間の協体制制作りに協会として役割を果たしたい。JANPS開催では懇話会と引き続き相談しながら協力をしていく」と挨拶した。

評議員会、3委員会の中間活動報告の後、3つの議案「新評議員に林克美氏・クラブ委員長に村松哲氏」「24年度事業計画」「JANPSの骨格」が拍手で了承された。会議終了後5時過ぎから懇親会を開き、1時間半にわたり歓談の輪を広げた。

(事務局)

必要は開発の母なり

新年のお祝辞を申し上げます。

本年はJANPSが開催されますが、震災復興の需要をバネとして景気の回復を望むところです。昨今、新聞業界は延命策、社を超えて委託受託印刷や共同配送が進み、それに関連する諸システムの追加変更が行われています。その中で弊社は、新聞製作下流設備のトータルメーカーとしてソフト設計から制御盤の製作、配線工事、メンテナンスまで内作で対応。お客様のご要望に合わせた延命対策、諸設備の更新、新工場設備のご提案を進めてまいりました。特にカウンタスタッカー、下敷装置、宛名添付装置、包装結束機など作業性、操作性を向上させた省資源型最新モデルの更新機をご提供しております。また、受託印刷される各社様へは宛名関連システムの

改修工事をご提供させていただきました。

巻き取り自動紙継ぎ支度機PPRは輪転機で行うペースターの前準備として両面テープやタブを貼り付ける自動機で弊社の代名詞となりましたが、ワンプ開梱装置との複合機、WPRはワンプの開梱・折り畳みから紙継ぎ用のテサテープ貼り付けまで1台二役のオールインワン機として安全性、操作性能を追求した全自動機です。省スペースでしかも出庫後の支度作業を1台で行なえ、巻き取り紙の品質管理の向上に最適な設備として東日印刷川崎工場様にご提供して順調に稼動中です。この間の実績を評価いただき、このたび愛媛新聞社様より新工場設備のご採用を、また数社様より引き合いを頂いております。KKSはお客様のご要望をご支援すべく更なる品質の向上、製品の開発に挑戦し新聞社の発展に貢献してまいりたいと考えています。



(株) KKS

環境に優しい事業

日本新聞インキは新聞インキの専門メーカーとして全国の新聞社様、ユーザー様へインキを供給しております。24時間運転可能な全自動システムの中部工場を主幹工場として、お客様に迅速に、より高品質な製品を安定供給出来る態勢を整えております。また弊社では、環境対応型インキ(VEGA-MXシリーズ、中性湿し水(ドンエッチNS-7シリーズ)といった製品以外にも、環境に配慮した優しい事業を進めています。

バッテリー再生事業は「コストダウン・安心安全・環境」をテーマに廃棄物・排出量を低減し、環境にも優しく、長期的にみれば、お客様のコスト削減につながる価値あるサービスを提供させていただきます。

ほとんどのバッテリーは充放電のプロセス

から硫酸鉛(サルフェーション)を生成します。硫酸鉛は電気を通さない物質で、蓄積・固着することにより充放電能力が落ちていきます。定格容量が低下した場合は寿命と定義され、これまでは廃棄処分されてきました。長年の使用(もしくは未使用)により、蓄積・固着された硫酸鉛を適切に分解処理(パルステクノロジー)することにより、ほぼ新品と同様の充放電能力を取り戻すことが可能です。

今回は本業のインキ以外の分野を紹介させていただきました。今後は高濃度インキ(グランツシリーズ)など、新しいインキの開発、高品質資材の販売はもちろんですが、新たな付加価値やサービスを提供させていただき、微力ながら新聞業界の新たな活性化と発展に貢献していく所存です。

今後とも変わらぬご愛顧とご指導の程、何卒よろしくごお願い申し上げます。


NISSIN 日本新聞インキ(株)

統合して一年

2010年10月コニカミノルタグラフィックイメージング(株)は、コニカミノルタビジネステクノロジーの国内販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズ(株)と統合しました。コニカミノルタグループは、情報機器や光学デバイス、医療、計測機器などの分野で事業を展開しており、なかでも商業印刷や企業内印刷を主要市場とするプロダクションプリント分野は、今後も大きな成長が期待され、経営基本方針の一つである「強い成長の実現」を支える重点事業として位置づけています。

今回の組織再編を通じ、長年に渡る事業で蓄積した商業印刷ビジネスに関する知見と、デジタル印刷システムでの事業ノウハウを集約し、商業印刷市場で高い評価を得ている製品品質と情報分野で磨かれた高い環境親和技

術を融合し、一層の競争力と業容拡大を実現してまいります。コニカミノルタビジネスソリューションズでは、高画質出力と高生産性を両立し、高い水準での画像安定性と優れた操作性を実現したデジタル印刷システム「bizhub PRESS C7000、C8000」を主軸にカラー、モノクロ複合機/複写機、プリンター、ソフトウェア/周辺機器、その他ビジネスにおけるコンサルティングサービスなど、最適なビジネスソリューション実現のサポートも行っています。またグラフィック分野では、カラープールのデファクトスタンダードの「デジタルコンセンサスプレミアム」やインクジェットカラープール「ファルバードアクア」、優れた環境適正と使い勝手を両立させたケミカルレスCTPシステム「ブルーアース」を提供しております。このように種々の商品を通じて、業界に寄与していきたいと思っております。

—  KONICA MINOLTA コニカミノルタビジネスソリューションズ(株) —

カラーライナー CPS

ゴスの新コンパクト全幅輪転機 カラーライナーCPS (Compact Printing System)は、ゴスインターナショナルが数々の実証された高性能を誇るFPS (Flexible Printing System)モデルをベースに、汎用性に富み、高品質で簡便な操作性や投資コストに見合うハイレベルの性能が要求される印刷会社のニーズを満たすために開発致しました。

カラーライナーCPSは3本着けローラーとベアラータッチの仕様による高い印刷品質と、従来のブランケットを用いながらも、動的安定性を提供します。


1色から4色まで、わずか2.7mの印刷距離は、ファンアウトを削減し、卓越した見当性をサポートします。

コンパクトで非分割のデザインは、タワー機の高さと作業スペースを抑え、印刷ユニット間の通路から印刷サブシステムへのアクセスが可能で自動版替装着装置へのアクセスにも障害ありません。

カラーライナーCPSは実証されたゴスの商業輪転機、新聞輪転機の技術を組み込んだもので、簡素化された操作により最低限の機付け人員で行えるようにデザインされています。

この新しいモデルは、4×2、5×2、そして6×2の仕様があり、幅広いレンジのカットオフ長にも対応します。

また、ゴスデジレールのデジタルインキングや自動プリセットイング、印刷自動、ローラー調整機能、版替え機構、紙幅変更等の仕様が選択できます。

—  GOSS | INTERNATIONAL (株)ゴスグラフィックシステムズジャパン —

CONPT 日誌

- 9月7日(水) JANPS準備部会～新聞博物館
・子ども新聞展見学～(出席8名)
- 9月13日(火) 評議員会並びに
JANPS2012第2回運営委員会
(出席6名)
- 9月15日(木) クラブ委員会(出席8名)
- 9月16日(金) JANPS準備部会～I G A S
展見学～(出席7名)
- 9月20日(火) CONPT TOUR旅行説明会
(於日本新聞協会8階会議室、
23名出席)
- 9月22日(木) 広報委員会(出席7名)
- 9月27日(火) 企画委員会(出席7名)
- 10月9日(日) CONPT TOUR2011出発
- 10月16日(日) CONPT TOUR2011帰国
- 10月18日(火) 第64回新聞大会(於京都)
- 11月8日(火) J A N P S 準備部会(出席8名)
- 11月15日(火) 評議員会並びに
JANPS2012第3回運営委員会
(出席10名)
- 11月17日(木) クラブ委員会(出席8名)
- 11月18日(金)～19日(土)
第35回国内研修会—新日本海新聞社製作センター&グッドヒル
見学(15名参加)

- 11月24日(木) 企画委員会(出席7名)
- 11月29日(火) 広報委員会(出席6名)
- 12月5日(月) 臨時クラブ委員会
(出席10名)
- 12月5日(月) 第37回年末全体会議並び
に懇親会(於日本記者クラブ
宴会場並びに大会議室、出席30
社38名、来賓2名)
- 12月26日(月) 事務局仕事納め
- 1月5日(木) 事務局仕事始め

新着資料

(国内)

- * 日本新聞協会“新聞技術” No.217、
“NIEニュース”第65号、“新聞広告報”
746号、“NSK経営リポート” No.10
“日本新聞年鑑2012”
- * 富士フィルムグラフィックシステムズ
“FGひろば” Vol.49
- * 三菱重工業“graph” 165
- * ゴス“WEB OFFSET”第68号

(海外)

- * WAN-IFRA “IFRA Magazine” 7～12月号

《JANPS 2012 日程》

— 読む 見る つたえる

今あたらしい新聞技術 —

11月27日(火)～29日(木)

午前10時～午後5時

(但し、最終日は午後4時まで)

於東京ビッグサイト 東6ホール

* 開会式

27日(火)午前10時

* JANPS懇親会

27日(火)午後5時半～

* 第3回CONPT TOUR合同再会パーティー

28日(水)午後5時半～

* 第59回新聞製作講座はJANPS期間に併せて開催する予定です

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (42社) 平成24年1月1日現在

社名	〒番号	所在地	連絡先
株イリス	141-0021	品川区上大崎3-12-18	03-3443-4695
株インテック	105-0001	港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル	03-3595-6753
NECエンジニアリング(株)	270-1198	我孫子市日の出1131	04-7185-7722
岡本化学工業(株)	335-0004	蕨市中央2-6-4	048-431-4816
株加貫ローラ製作所	131-0043	墨田区立花4-8-23	03-3619-6301
株KKS	146-0092	大田区下丸子1-15-21 三葉精機ビル3階	03-5482-5481
株金陽社	141-0032	品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー6階	03-5745-6221
クオード・テック・インク日本支店	336-0034	さいたま市南区内谷3-11-26	048-839-8831
コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)	103-0023	中央区日本橋本町1-5-4	03-6362-7035
コダック(株)	101-0062	千代田区神田駿河台2-9 KDX御茶ノ水ビル	03-5577-1200
株ゴス グラフィック システムズ ジャパン	350-1328	狭山市広瀬台2-5-15	04-2954-1093
サカタインクス(株)	112-0004	文京区後楽1-4-25 日教販ビル	03-5689-6666
清水製作(株)	108-0023	港区芝浦3-17-10	03-3451-1261
西研グラフィックス(株)	144-0051	大田区西蒲田8-22-2 第二丸信ビル1階	03-5713-7717
第一工業(株)	335-0002	蕨市塚越7-2-8	048-441-3660
DICグラフィックス(株)	103-8233	中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル	03-3278-1247
田中電気(株)	101-0021	千代田区外神田1-15-13	03-3253-2816
株椿本チエイン	108-0075	港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階	03-6703-8402
東京インキ(株)	114-0002	北区王子1-12-4 TIC王子ビル	03-5902-7625
株東京機械製作所	108-8375	港区芝5-26-24	03-3451-8172
東芝ソリューション(株)	105-6691	港区芝浦1-1-1	03-3457-4410
東洋インキ(株)	104-8378	中央区京橋2-3-13	03-3272-0721
東洋電機(株)	480-0393	春日井市神屋町字引沢1-39	0568-88-6401
東和電気工業(株)	104-0032	中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6F	03-6222-5005
株ニコン	100-8331	千代田区有楽町1-12-1	03-3216-2065
ニッカ(株)	174-8642	板橋区前野町2-14-2	03-3558-7861
ニチロ工業(株)	221-0864	横浜市神奈川区菅田町2800	045-475-7229
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	中央区日本橋箱崎町19-21	03-3808-7026
日本新聞インキ(株)	108-0075	港区港南1-8-27	03-3450-5811
日本電気(株)	108-8557	港区芝浦2-11-5 五十嵐ビル5階	03-5476-4656
日本ボールドウィン(株)	108-0023	港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階	03-5418-6121
パナソニックSSインフラシステム(株)	224-8539	横浜市都筑区佐江戸町600	045-938-1613
株日立製作所	140-8573	品川区南大井6-26-2	03-5471-2141
富士フィルムグラフィックシステムズ(株)	101-8452	千代田区神田錦町3-13 竹橋安田ビル	03-5259-2322
富士通(株)	105-7123	港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター	03-6252-2625
富士薬品工業(株)	176-0012	練馬区豊玉北3-14-10	03-3557-6201
方正(株)	140-0014	品川区大井1-24-5 大井町センタービル	03-5746-2651
ボッシュ・レックスロス(株) サーボシステム事業部	150-0002	渋谷区渋谷3-6-7 ボッシュビル渋谷3階	03-5485-7240
三菱重工印刷紙工機械(株)	144-0033	大田区東糀谷4-6-32	03-3744-2951
三菱製紙(株)	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル4階	03-3216-7503
ミューラー・マルチニジャパン(株)	174-0042	板橋区東坂下2-5-14	03-3558-3131
明和ゴム工業(株)	146-0092	大田区下丸子2-27-20	03-3759-4621

CONPT